

## SBC合同研究会YEAR BOOK制作における成果報告書

<概要>SFCの新たな革新的取り組みとしてStudent Build Campus (以下SBC)が2015年から本格的にスタートした。2016年度にはSBC合同研究会が発足し、滞在棟1が完成した。この1年はSBCを創造し運営する人、実際に場を使う人、こうした取り組みをサポートする人などたくさんの人の関わりによって多様なアウトプットが生まれた年である。こうした活動成果をまとめ、その成果を検証するためにYEAR BOOKを作成する。その目的は以下3つにまとめられる。

1. 滞在型教育・滞在型研究の場としてのSBCの可能性と課題を明らかにすること。
2. SBC に関連する様々な活動成果をアーカイブ化すること（理想は毎年出版していくことにある）。
3. SBCというプロジェクト/SBC合同研究会の活動をより多くの人（SFC関係者、卒業生、企業など）に理解してもらい支援・協力のネットワークを広げること。

3月末にグラフィック社（<http://www.graphic.jp>）に製本を依頼し、1400部のYEAR BOOKが完成した。この冊子は新入生ガイダンスで2017年度SFC入学者全員の手に渡り、さらにはSFCの教職員や卒業生などにも渡った。

### <成果>

(1)これからSBCに関わる人にも配布した

特に新入生には4月4日に行われた新入生ガイダンスの際にシータ館入り口で配布をした。同日午後に行われたSBC滞在棟の内覧会には多くの新入生が訪れ、中には合同研究会に入りたいという学生も多数いた。現在合同研究会には7人の新入生が加わり、SBCに関わる層が広がった。研究会に所属しなかった新入生でもSBCへの興味を持つ人が生まれ、今後の活動にますます期待が高まった。

(2)これまでにSBCに関わった人にも配布した

教職員、卒業生、地域の方、企業の方、SFCの学生に郵送や手渡しで配った。この冊子は2016年度ともにSBCをつくった方への感謝の気持ちが込められている。配布した多くの人から応援の言葉をいただき、今年度以降の継続的な協力関係を築くことが期待できた。

(3)制作を通じて、SBCにおける課題や可能性に気づくことができた。

SBCにおける課題はミクロなものからマクロなものまで様々であるが、今回一年を振り返ってアーカイビングしてみたことによって見えた課題は、私たちが今後きちんと向き合っていかなければならないことである。また、SBCが秘めている可能性を新たに見出すことにもつながり、今学期以降の活動を支える土台となった。この気づきは制作においての重要な成果であり、SBCがこれからさらに躍進していくことにつながるきっかけになった。

以上のように、YEAR BOOKは多くの成果を生んだ。そして、それがより顕著になるのはこれからであり、まだ私たちが気付いていないYEAR BOOKの成果があるのかもしれない。

2017年4月 SBC合同研究会